

報告



第34回技術士全国大会 (北陸・福井) 参加報告

技術士(建設/総合技術監理部門) 星野利幸

1 はじめに

第34回技術士全国大会は、2007年10月16日～19日の4日間の日程で技術士法制定50周年記念大会として越前・福井にて開催されました。北海道からは大島支部長はじめ25名が参加しました。

以下に大会の内容を報告いたします。

2 大会の概要

(1) 大会のテーマ

今大会のテーマは「科学技術が育む地球の未来」～美しい緑、水辺、大地とともに～であります。原子力発電所に代表される科学技術、美しい自然環境と歴史・伝統・文化、それぞれを実感できる大会でありました。

(2) 会場

大会会場は福井市内のフェニックスプラザ、関連行事は福井県交流会館で開催されました。福井市内には平成16年の福井豪雨災害で記憶に新しい足羽川(九頭竜川の支川)が貫流しております。また、戦国武将柴田勝家の居城であった北の庄城(現在は柴田神社)、家康の二男結城(松平)秀康築城の福井城(現在は福井県庁)はともにJR福井駅から300mの位置にあります。

(3) スケジュール

【10月16日】

親善ゴルフ、永平寺参籠、青年技術士の集い、第4回技術者倫理研究事例発表大会、第3回全国防災連絡会議、ウェルカムパーティ

【10月17日】

全国大会(分科会、分科会報告、記念式典、記念講

演、交流パーティ)、パートナーツアー

【10月18～19日】

テクニカルツアー

3 全国大会

(1) 分科会

大会の中心行事である分科会は、5つの分科会が設けられ、以下のテーマで話題提供と意見交換が行われました。

第1分科会：省エネルギーのこれから

第2分科会：健康長寿と環境のための新技術

第3分科会：大規模災害と危機管理

第4分科会：技術者倫理と継続研鑽

第5分科会：環日本海大交流を目指して



写真-1 第1分科会会場の様子

近年、北陸地方は地震、水害と大規模災害が連続して発生し、また、私自身学生時代の六年間を新潟県長岡市で過ごした経験から、非常に関心と興味があった第3分科会に参加しました。ただし、災害そのものに関する情報はこれまでも得ていたもので、「危機管理」に関する内容に期待して参加しました。

基調講演は、「最近北陸地方で発生した地震・豪雨災害」、発表演題は「中越地震」「中越沖地震」「2007

能登半島地震”“平成16年7月福井豪雨”に関して報告されました。内容的には、各大規模災害の概要が主体であり、私が期待した危機管理に関する内容に特化していなかったことは残念でした。しかし、災害自体の情報をこれまで以上に得たことは有意義でありました。また、福井豪雨の際、足羽川の堤防が決壊しましたが、その後の河川改修計画により福井の名所でもある“日本一の足羽川桜並木”が縮小されることにつながるのが、河川技術者でもある私の心に複雑な思いとして残っています。

(2) 記念式典

歓迎挨拶、主催者挨拶に続き、4氏の祝辞がありました。この原稿を書いている現在となつては記憶が定かではなく、誰が言ったか忘却しましたが、「裏日本」という言葉を使っておられる方がいました。私が中学で使った社会の教科書に「裏日本」という言葉があり、冬は豪雪のため2階の窓から出入りする写真が掲載されていたことをふと思い出し、懐かしく思いました。



写真-2 記念式典の風景

(3) 記念講演

記念講演は、「原子カルネッサンス時代を迎えて」と題して前福井大学長の児島眞平先生が講演されました。福井県といえば我々技術者が第一にイメージするのが原子力発電であり、福井県らしいテーマであります。ただし、お話は福井県独自の問題ではなく、世界の国々において、地球温暖化防止や昨今の原油高騰を踏まえると、原子力発電を見直し、安全性に対する信頼を回復して原子カルネッサンス時代がやってくるというものです。日本も原子力発電を国家戦略として推進する方針を明確に打ち出しまし

た。講演は、世界のエネルギー資源と原子力産業の将来について展望したものでした。原子力の今後の課題は、①現在の軽水炉の高経年対策②次世代の高度な軽水炉技術の開発と海外展開③高速増殖炉の研究開発と商用化④ウラン濃縮と核燃料サイクルの確立⑤高レベル放射性廃棄物の処理⑥核不拡散問題です。なお、資料にあった電源コスト(kWh 当り)を示すと、石油火力および水力発電11円(火力発電に関しては、現在はもっと高いと思います)、太陽光発電60円、原子力発電6円となっています。

(4) 交流パーティ

会場を福井市内のホテルに移して約320名が参加して交流パーティが実施されました。会場はジャズの生バンドにつつまれしっとりとした感じでした。最初に技術士会および大会役員、来賓による鏡開きで威勢良く開宴されました。



写真-3 ジャズ生バンド



写真-4 鏡割り

今回の全国大会は、来年10月17日~20日の期間、中四国支部の島根市で開催されます。大会テーマは、「神話の国で語る未来技術の創造」であります。古来から、10月は日本中の神様が出雲(島根)に集合するため、“神無月”と呼ばれていますが、逆に島根では“神在月”と呼ばれています。日本中の神様とともに島根においで下さい!と、お国自慢の“やすき節”の披露とともにPRされていました。

4 おわりに

皆さんは、「コシヒカリ」は福井で開発されたことをご存知でしょうか? また、平均寿命、住まいの広さ、失業率等、様々な暮らし安さの指標は、全国トップレベルです。このような再発見やその土地の歴史、文化、風土等に直接触れるのも全国大会に参加するところの意義の一つと考えます。